

# 広報えびな



市の木つげ



市の花さつき

## ◆大字紹介◆

なかこうち この地域は相模  
中河内 丘陵の台地下に沿  
う水田地帯。河内は耕地の意味  
で、同音の文字をあてた。

発行・海老名市役所・海老名市国分155/編集・秘書広報課/電話・31-2111(代) /〒243-04

毎月1日・15日発行

## 今泉中「ふるさと森」



市では、急速な開発で失われつつある緑を守り、増やすために各種事業を行っています。その一環として去年三月に「海老名の大ケヤキ」の若返り処置を、また五月に今泉中学校で「ふるさと森」づくりが行われました。今回は、海老名の植物分布に調和した植栽方法で各方面から注目されている「ふるさと森」を中心に、植樹一年後の様子を紹介します。

### 森は僕らの手で

去年五月、私たちの学校を緑豊かな「ふるさと森」にしよう」と、今泉中学校(今内浦校長、生徒数八百十三人)の生徒たちが植樹祭を行い、タブ、シラカシ、アラカシのポット苗千八百本を校庭に植えたことは、みなさんの記憶に新しいことと思います。

この「ふるさと森」づくりには、海老名の自然に合った樹木を密植し生存競争をさせて、自然の森に近い形で緑を増やそうというもの。二年前から市内の植物分布調査を行っている宮脇昭氏(横浜国立大学教授)「植生学」五十七歳が、調査結果をもとに提唱した植栽方法です。

「君たちが、ふるさと森のプロデューサー。大事に苗を育てていってください。」

### 「自然」に興味がある

苗木の世話はクラス分担制。一クラスに約九十本ずつ割り当てられた苗木は、「郷土の日」(市の自然、歴史を学び郷土愛を育てるため今泉中が設けた日。毎月二十二日前後に行われる)には、クラスごとに責任を持って苗木の観察、水くれ、雑草取りなどを行っています。

緑化委員の仕事は、これら苗木の世話を率先して、クラス全員が自主的に「ふるさと森」づくりに取り組める雰囲気を盛り上げることです。

そのため、同委員会では苗木の

生長記録を集計し、調査結果をグラフにして発表したり、活動報告を掲載した「緑化新聞」を発行しています。当初はクラスメートの関心も薄く、中には苗木の世話をさぼる生徒や文句を言う生徒もいて、それなりに苦労も多かったと

### 努力が実った!

「ふるさと森」づくりを始め、一年。生徒たちの努力が実り、植樹当時約五十一センチだった苗木も現在は「一メートル三十センチ」に育って、夏の日照り、冬の寒さで枯れた苗木はたった十本。

植樹祭以後、今泉中学校ではアオキ、ヤブツバキなどの苗木三千本を植樹し、計四千八百本の樹木が生徒たちとともに育っています。

現在の生徒たちが青々とした樹木を見上げ、自分の子供に「この森はお父さんが育てたんだよ」と自慢話ができるのも、そう遠い未来ではないようです。

## 大ケヤキにも小さな森

園分にある、海老名の大ケヤキ(昭和二十九年県天然記念物指定)

は、幹の周囲八、高さ二十以上の市内最長老の古木として親しまれていますが、近年、樹勢が衰え、その回復策として去年三月、宮脇氏の指導で若返り処置がられました。

この処置は大ケヤキを中心に、半径一メートル以内と同じケヤキ、シロダモなどの高木、その外に亜高木、低木、草木類という順でそれぞれ高さ五十センチ前後の苗木を密植し、老木の生存競争の本を自覚めさせるというものです。



順調に育つ苗木を観察する緑化委員の面々



この苗が大ケヤキの由来?

第5回

## 市の花さつき展

5月25・26日 市文化会館

5月25日(土)・26日(日)午前9時~午後4時、市文化会館展示室。内容はさつきの展示、栽培技術の指導、さつき苗の無料配布(同日で300本、抽選)、さつき廉価販売(市さつき研究会会員が丹精したのも)など。主催は海老名市・市さつき研究会(☎38・4678)。









